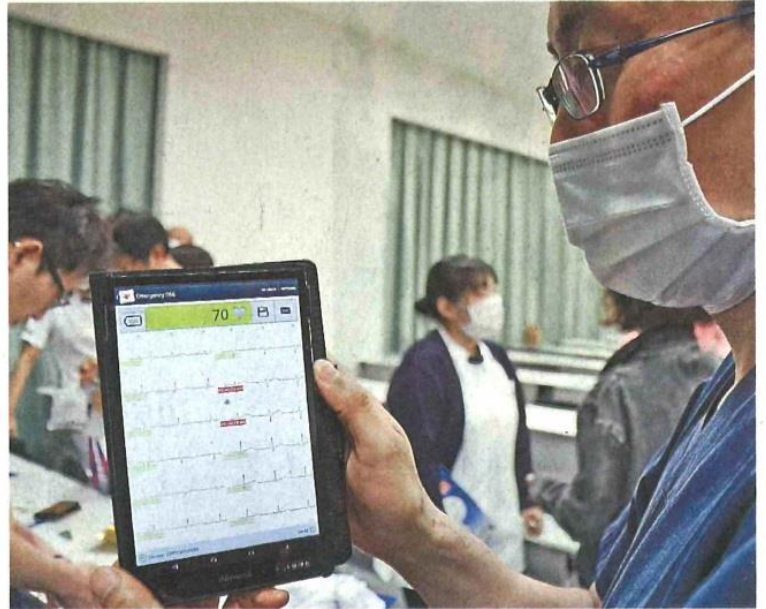


患者の心電図 救急車から製鉄記念室蘭病院へ

室蘭と登別の
市消防本部

実証実験を開始



製鉄記念室蘭病院と、室蘭、登別の両市消防本部は、搬送患者の心電図の詳細なデータを救急車から病院に送る「12誘導心電図伝送システム」の実証実験を始めた。搬送段階で、心筋梗塞など迅速な治療が必要な患者を、病院や自宅で待機し

研修説明会でクラウドに蓄積された心電図のデータを確認する医師

ている医師がいち早く診断できるようになり、救命率の向上が期待される。

インターネット上にデータを蓄積する「クラウド」を活用し、医師が心電図を確認する仕組み。

従来、救急車で計測できる心電図の波形は3種類で直接データとして送信することはできなかったが、新システムでは12種類を計測し、すべてのデータを病院側でも確認できるようにする。

室蘭と登別の救急車各1台に機器を搭載し、16日に実証実験を開始した。期間は1年間で、手術完了までの時間や救命率のデータを蓄積する。製鉄記念室蘭病院によると、19日までの4日間で新システムを活

用した症例は4件あった。

道救急業務高度化推進協議会のガイドラインでは、心筋梗塞でカテーテル治療をする際は、救急隊員が到着してから90分以内の治療開始が目安とされている。

実証実験の端末費用とクラウドの利用料は製鉄記念室蘭病院が負担する。市消防本部によると、急性心筋梗塞などの循環器疾患の大半は、専門医が多い同病院に搬送されている。

11日に同病院で開かれた研修説明会には、医師や両市の消防本部から50人以上が出席し、機器の使い方を確認した。医師の高橋弘・循環器科科長は「実証実験での成果を踏まえ、(新システム)本格的な導入につながってほしい」と話した。(須田幹生)